

共同研究 大山崎離宮八幡宮社家・藤井家文書の研究

2016年度の研究活動報告

中島 三千男

【目的】藤井則伴家の先祖は九州宇佐八幡宮の出で、室町時代から続く社家とされている。近世を通じて離宮八幡宮の社家として、離宮八幡宮及び神領大山崎荘の経営にも携わっていた。

これまで大山崎地域、離宮八幡宮の近世～近代の研究は『離宮八幡宮史』（魚澄惣五郎・沢井浩三）、『大山崎史叢考』（吉川一郎）、『大山崎町史』さらには『山城国大山崎荘の総合的研究』（神奈川大学日本常民文化研究所大山崎調査プロジェクト）によって蓄積されてきたが、今回明らかになった文書はそれらの研究で使われてない初出の文書である。

また、とくに離宮八幡宮の神領であった、旧山城国大山崎荘は、近代に入り関大明神（閻魔川）を境に西側が大阪府（山崎村→島本町）、東側が京都府（大山崎荘→大山崎町）に分割されたが、藤井家文書はその西側の社家に伝世されてきたまとまった資料として初めてのものである。

【経過】昨年（2015年）秋、これまで長年にわたってお世話になっている離宮八幡宮宮司津田定明様より、大阪府三島郡島本町在住の藤井則伴家より古文書が出てきた旨、御連絡をいただいた。さっそく、藤井様に連絡をとったところ本家の納屋を整理していた時に古い道具類や古文書類が出てきたとのことであった。そして文書の方は島本町教育委員会の方に寄託したとの事であった。

さっそく、島本町教育委員会の方に連絡をとり、神奈川大学日本常民文化研究所の大山崎荘、離宮八幡宮研究の経過を述べ、史資料の写真撮影をお願いをしたところ、快く了解していただいた。



写真1 関大明神古文書

【成果】 本年（2016年）9月2日～4日にかけて、田上繁、中島三千男、それに大学院生の岡崎祐也の3人で文書が保管されている島本町立歴史文化資料館（館長吉村光子氏）に出かけ史料の下見と一部の写真撮影を行った。

【今後の課題】 引き続き文書の写真撮影を行う。



写真2 藤井家所蔵掛軸



写真3 史料撮影（2016年9月）